

# 学校コンサルテーションにおけるコンサルティーマン・コンサルタンの連携に関する研究(1)

—コンサルタントとしてのスクールカウンセラー・相談員についての教師の評価・意見—

小林朋子\*

## A Study on Collaboration between Consultants and Consultees in School Based Consultation(1)

Tomoko KOBAYASHI

### Abstract

The objective of this study was to examine the needs of consultees and to evaluate consultation or consultants in schools. We administered questionnaires to a total of 571 middle school teachers regarding their needs as consultees and asked them to evaluate the consultation process or their consultants. As a result, the needs of consultees were classified into 7 categories. The study also indicated that some consultees became aware of new children's resources through consultation, which informed them about child assessment. However, as was demonstrated, consultees complained that consultants did not understand the traits of school; moreover, there were many differences between the abilities and level of enthusiasm of each consultant.

キーワード： コンサルテーション コンサルタント コンサルティ 教師

### I. 問題と目的

コンサルテーションは、「異なる専門性や役割を持つ者同士が子どもの問題状況について検討し、今後の援助のあり方について話し合うプロセス(作戦会議)」(石隈, 1999)と定義されている。このコンサルテーションでは、コンサルティとコンサルタントは異なる領域の専門家同士であり、通常コンサルタントが心理の専門家であるスクールカウンセラー(以下、SCと略す)、コンサルティが教師であることが多い。

コンサルテーションの受け手であるコンサルティは、自身が抱えているクライアントの問題を解決できたかなどそのコンサルテーションが有効であったかについての評価をする。それをコンサルタントが受け止め、改善すべき点があればさらに改善していく必要がある。コンサルティとコンサルタントの評価を比較した研究として、Medwey & Forman(1980)は、2つの理論モデルを用いたコンサルテーションのビデオ場面を心理臨床家と教師に提示したところ、教師は Behavioral Consultation を、心理臨床家は Mental Health Consultation をより効果的であると評価が異なっていたことを明らかにしている。伊藤・中村(1998)は、教師312名とSC121名を対象にし、SCに期待する役割などの比較を行ったところ、互いの役割に対する期待度やSCに求める条件についてかなり共通した見解を有していたが、両者の間には立場の違いを反映した

多少のズレが見られたことを明らかにしている。さらに伊藤(2000)は、SC配置校の教師とSCを対象とした調査を行い、SC事業評価尺度の「効果」14項目について教師群とSC群で比較をしている。その結果、〈有用・安心感〉の因子である「異なる専門的な見方を知ることができる」「専門家であるという安心感がある」といった項目については教師群の方が得点が高かった。しかし、「学級担任の負担が軽減され授業に専念できる」「学校としての職場のチームワークがよくなる」といった項目が含まれている〈教師援助〉の項目ではSC群の評価の方がすべて得点が高かった。つまり、コンサルタントであるSC・相談員とコンサルティの教師との間に認識や評価の違いがあることが先行研究によって指摘されている。このことから、コンサルタントとコンサルティ双方の立場からコンサルテーションについて検討する必要があると考えられる。

そこで、まず1回目としてコンサルテーションの受け手であるコンサルティに焦点をあてる。本研究では、コンサルティである中学校教師に対して、学校コンサルテーションに関して自由に意見を求め、その記述からコンサルティからのコンサルテーションに対する要望や評価を明らかにし、学校コンサルテーションの課題について考察したいと考えた。

### II. 方法

#### 1. 調査対象者

静岡県、千葉県、大阪府内の中学校に勤務する教師

\* 附属教育実践総合センター

(管理職を含む)にアンケート調査を実施し、1252名から回答を得られた(回収率 83%)。そのうち、欠損回答が3個以下の回答のみを使用することにしたため946名となった(有効回答率 63%)。

2. 調査内容

調査用紙の内容は、表紙にコンサルテーションに関する簡単な説明文を入れ、コンサルテーション、コンサルタントとコンサルティの用語の意味について説明した。そして、「教師と異なる専門家によるコンサルテーションについてご意見などがありましたら自由にお書き下さい」と教示し、自由に記述してもらった。

3. 調査時期

2005年12月上旬～2006年2月中旬に実施した。

4. 実施の手続き

県と市教育委員会を通して学校長にアンケート調査協力依頼書を出し、協力が得られた中学校に調査用紙を送る方法と、筆者が担当した教員研修会などに参加した教師にその場で協力を求め、直接配布と回収を行う、2つの方法にて実施した。なお、教育業務への支障を考慮し、事前に教育委員会もしくは管理職に内容の検討を依頼した。また日本発達心理学会(2000)の倫理規定に基づき、プライバシーの保護を保障するため、調査用紙のフェイスシートに個人データの外部流出に最新の注意を払うことや、データ解析が終わったらシュレッダー処理する旨を回答者に伝えた。

5. 分析方法

自由記述を回答者ごとに、学校臨床を専門とする大学教官および中学校教師の2名によりKJ法にて分類した。

Ⅲ. 結果

1. 回答者の概要

回答はコンサルタントに相談した経験のある教師を対象とした。回答者は総計571名であり、男性教師295名、女性教師276名であった。年代は、20代42名、30代136名、40代241名、50代144名、60代7名で、担任教師364名(64%)、養護教諭36名(6%)、その他(副担任など級外)120名(21%)、管理職48名(9%)であった。

2. 分類カテゴリー

各記述の内容を、コンサルテーションに関して肯定的な記述と、否定的な記述、コンサルタントの資質に関する記述とに分類した。さらにコンサルタントの資質に関する記述を分類していった。その結果、得られたカテゴリーは、<重要性の認識><体制に関する要望・意見><コンサルタントの専門性に関する要望・意見><コンサルタントのあり方への要望・意見><肯定的評価・意見><評価されたコンサルタントの問題解決への関わりおよび要望><否定的評価・不満>の7つのカテゴリーであった。

(1) <重要性の認識>

このカテゴリーの主な記述をTable1に示す。このカテゴリーでは、教師とカウンセラーの連携においてコンサルテーションが重要であると教師が捉えたり、実践しているもしくはこれから実践したい等の意見があった。

(2) <体制に関する要望・意見>

このカテゴリーの主な記述をTable2に示す。このカテゴリーでは、カウンセラーの勤務時間が少ない、常駐するようにしてほしいといった、主に行政の体制に関する要望が多く見られた。

Table 1 <重要性の認識>の記述
教師と違う立場から話すことと、教師と協力しながら生徒に接していくことを、コンサルテーションの方、教師ともに考えなければならないと思う。
必要なことはコンサルテーションして有効だったかだと思ふ。学校コンサルテーションの必要性は十分理解しているし、以前は自分がコンサルテーションしていた。直接関わるのは教師だが、その方向性を見出してくれる方法としてよいと思ふし、カウンセラーがケースとして抱えると数知れているが、関わるのは教師としてそのやり方・考え方をカウンセラーが伝えていけば効果があると思ふ。学校にSCがいるが、ケースとして関わることにより、コンサルテーションをもっと広めていくことが、教師の力も向上し、子どもも救う数は増えると思ふ。
コンサルテーション、すごく大切だと思います。
このような「コンサルテーション」ということを行い子どもへの対応が今まで以上に出来るよう、機会があったら実践してみたいと思ひました。
有効に利用すれば、とてもよいものだと思うのでぜひ普及して欲しい。

(3) <コンサルタントの専門性に関する要望・意見>

このカテゴリーの主な記述を Table3 に示す。このカテゴリーでは、コンサルタントに専門性を求める意見でまとめられた。

(4) <コンサルタントのあり方への要望・意見>

このカテゴリーの主な記述を Table4 に示す。このカテゴリーでは、さらに内容ごとに分類を下位カテゴリーを作成した。学校という場の特性を理解した対応をコンサルタントに望む<学校・教師の立場への理解>、それをふまえて<教師との連携>、さらに教師を情緒的にもサポートすることを望む<教師のメンタルヘルスへのサポート>、教師への積極的なコミュニケーションを望む<コミュニケーション>、そして<人物>に分けられた。

(3) <肯定的評価・意見>

このカテゴリーの主な記述を Table5 に示す。このカテゴリーでは、コンサルタントの関わりによってクライアントの問題が解決の方向に進んだり、教師が安心感を得られたといった記述が多かった。

(4) <評価されたコンサルタントの問題解決への関わりおよび要望>

このカテゴリーの主な記述を Table6 に示す。このカテゴリーでは、クライアントの問題解決に関してコンサルタントがとった具体的な関わりについて、肯定的な評価が記述されていた。また、コンサルティはコ

ンサルタントに、クライアントに何が起っていて、何が問題となっているのか具体的な見立てを伝えて欲しいことを望んでいた。こうしたコンサルタントの見立てが伝えられることによって、教師と異なる視点でクライアントを見られるようになったり、自分の考えを冷静にみつめることができたりし、教師の“気づき”が促されたことを教師は評価していた。さらに、教師ができることを具体的に伝えることや、連携に関してもコンサルタントの問題解決に関する関わりとして要望が述べられていた。

(5) <否定的評価・不満>

このカテゴリーの主な記述を Table7 に示す。このカテゴリーでは、さらに内容ごとに分類し下位カテゴリーを作成した。クライアントの子どもの問題が解決しないことに関連した<問題解決の不十分さ>、学校という場の特性を理解していない、または教師の忙しさに配慮していない態度をコンサルタントがとっていたことによる不満などが<学校の特性や忙しさを考慮しない関わりへの不満>、コンサルタントによって専門家としての力量、人間性、熱意などがコンサルタントによって大きく異なることに対する不満が述べられた<コンサルタントの力量、熱意等のばらつきへの不満>、そして SC・相談員は必要ない、もしくは相談したことによってかえって混乱したといった否定的な意見である<否定的評価>となった。

Table 2 <体制に関する要望・意見>の記述

常駐してほしい。学校全体で生徒指導についての話し合いをしてほしい。
市の予算削減により、今年度からスクールカウンセラーが週に1回半日しか校内にいられなくなったことが大変残念です。昨年度までは生徒と直接話をする時間があり、救われた子も何人かいました。今年は親のみとしか時間がとれません。改善してほしいです。
学校に必要不可欠な存在です。今現在、学校にはたった半日の勤務です。せめて1日、若しくは2日以上勤務してほしいです。
なかなか相談できないのが現状。(空き時間が少ない、来る日が特定)結局気になる子や行動についてそのままになってしまうことも多い。もっと相談できる雰囲気・システムがあるといいです。
常駐する専門家がほしい。
年々、個に対応する内容、量が増えていく一方です。ぜひ、各校に常駐できるコンサルタントに来ていただけるようお願いしたいです。
毎日常に校内にいてほしい。
今、本校に来てくださっているカウンセラーは、数校をかけ持ちし、週1回4時間の中で毎回数人の生徒、保護者に対応しています。そのため、ゆっくり教師と情報交換する時間は全くありません。予算の関係から、このような配置になっていると思いますが、本来、カウンセリングやコンサルテーションは、速効的なものではないので、もう少しゆとりを持ってできるような行政の配慮を要望します。

Table 4 &lt;コンサルタントのあり方への要望・意見&gt;の記述

## &lt;学校・教師の立場への理解&gt;

大切なのは現場を理解して下さることだと思います。机上の空論ではなく、実際をともなったコンサルテーションが行われるとありがたいです。

問題行動を起こす子を理解し、受容することは、大変大切だと思いますが、集団の中でそれを行うと、その集団が崩れてしまう可能性があります。その辺をふまえ、学校や学級の実情をよく理解されている方にコンサルテーションを行ってほしいと願っています。

教育現場の経験のあるものが研修し、その職に就いたほうが良い

教師にも個性があり、指導のやり方に違いがあることを忘れないでほしい

SCは学校という集団生活の場であるという認識にたつて生担とどのように対応できるのかを考えてSCにあたってほしい、(一人の子供だけを見ているという視点だけでは病院にいるのと同じこと、その子がいる集団をとらえていかないとSCはできないと思う。個人だけならばどっかに行って相談すればすむことです。教育相談は全てではないということをSCも学校も共通認識した上で実施しないと必ずひずみが生じると思います。)

## &lt;教師との連携&gt;

教員が触れにくい部分(特別な配慮を必要とする生徒)の本人や保護者、理解できない教員や周りの生徒へ、専門の立場で話をしてほしい。教員に配慮せず、ともにより良い方向を探っていこうというチームの一員になって欲しい。

コンサルタントの方は、学校職員との連携が、問題行動のある子どもたちをよくするために最も大切だと思います。

勝手な言い方ですが、学校から独立した機関でありながら、学校との橋渡しをするお仕事だと思います。

## &lt;教師のメンタルヘルスへのサポート&gt;

難しい子供達(もちろん大人の責任ですが…)が増え、子供の事で相談するのが当たり前ですが、時には自分がストレスをためすぎて爆発(体が)しそうになります。ですから時間があるときは是非職員室にいて気軽に話しかけて頂けると肩の力が抜けるかと思えます。研修でも以前の学校ではやって下さいました。

## &lt;コミュニケーション&gt;

悩みや問題を抱える子供たちには、教員ではないまた別の立場の人が話を聞いてあげることも有効であると考えます。一教員としては、そのような方が、積極的に子供たちや職員室の中に入ってきて相談を進めていってくれることを希望します。

コンサルタントは教師に遠慮勝ちな傾向にあると思うので、専門的見地からもう少しはっきり言ってもらっていいと思います。

問題が発生してから接するのではなく、日常的に話す機会をもつことができれば、問題の発生を未然に防げたり、早期の対応ができたりと思う。

直接子どもともしっかり話してほしい。理論的なことを言うだけでは(教師や保護者に対して)本質は変わらない。

積極的にかかわってほしい。

## &lt;人物&gt;

コンサルタント(スクールカウンセラー)は、自分自身、かつて心の痛みを味わったことがない人は、できない職業だと思います。教師と同じで、「スクールカウンセラーも人なり」ですね。昔、学力優秀な教師が、目も前の分数の計算ができない生徒の気持ちを、どう理解するか四苦八苦するのと同じです。

Table 5 <肯定的評価・意見>の記述
一人の子どもを多くの視点からとらえることは大切なことと考えているので、様々なケースを持っている人はとても頼りがいがあると感じる。教師が安心できます。
教師一人で問題のある生徒を抱えこむことなく一緒に考えてくださる安心感や、いろいろな方法を提示してくれ、そのままじゃなく、良い方向へ進展させることができる
カウンセラーに相談して本当に良かった。抱えたケースで、自分自身がどう対処すべきか全くわからなかった。同じカウンセラーに母親と私が同じ方向を向くことができた。今までカンで行っていたことのでたらめさがよくわかった。
現在本校にいるコンサルタント(カウンセラー)は長欠生徒の多い本校ではかかせない存在となっています。子供と積極的にかかわり、また、教師に対してもさりげなく語りかけてくれたり情報をくださる態度に、逆に学ぶことが多く、時には、自分自身の問題にも話に乗ってもらっています。
私は養教なのでSCとは最も接点が多いです。SCからコンサルティングを受けたことによって、気がつかなかった子どもの問題点が見えたり、問診内容や観察ポイントなど、有効だったことがいくつもあります。また、現在のSCとは学校を離れても親しくしているので、とてもうまくいっています。学校にとってSCは絶対に必要です。勤務時間、常勤になってもらいたいくらいです。
学校を客観的に見てくれるので、大変ありがたい。
○先生は私がおその生徒と関わりがよくなるようにその生徒との関わりをもってくれ、最終的には、その生徒は教室にも入れ、他の生徒とのよい関わりをもてるようになった。もちろん、私自身の学級経営においてもプラスの働きかけをしてきていたようだ。(実際どんな話をしたのかはまったく分からない、教えてもらったわけではないので)。でも、おそらくそういう関わりをもってくれたのだろうと思った。そういう生徒が1人ではないので、素晴らしい関わりだと思う。関わった生徒も幸せだと思います。

Table 6 <評価されたコンサルタントの問題解決への関わりおよび要望>の記述
目に見える事だけでなくその子に何が起っていて、何をすればよいのか、先を見通した客観的なアドバイスをいただけた時は本当にうれしい。暗いトンネルの中で一筋光が見えたような気がして、その子への接し方もそれだけでゆとりのあるものになるような気がする。つい私達は「今」をどうにかしようとしてしまいがちなのですが、その先に目指すものを提示していただけると、違った接し方もできる気がします。そういう意味で、見えていないものを見るようにしていただけるとありがたいと思います。
専門家の立場からご意見がいただけると、自分の考えを冷静に見つめ直すのにとっても参考になります。時には～はやめた方がいいとか、～の方がいいなど教師の意見とは違う話をいただけたらとてもうれしいです。また、その子について、少しでも情報交換ができる人がいると、たのしいので、それは続けてほしいです。何だかんだいっても最終的には担任にのしかかってきますので。
専門的・客観的な説明で、問題点を明確にしてくれることで、不安が軽減されました。
コンサルタントが感じている問題点を指摘してもらえると、教師として心強い。
いろいろと相談していく中で、違った視点で指南してくださるのでいつも“はっ”と気付く場面があります。子どもだけではなく教員も変なプライドが邪魔をして、困っていることなど誰にも相談できず心の病気を抱えている人もいます。学校で何でも話を聞いてくれる安心感を与えるようなカウンセラーがいてくださると心強いです。

Table 7 &lt;否定的評価・不満&gt;の記述

## &lt;問題解決の不十分さ&gt;

指針を示すというのはむずかしいが(選択肢を示していただけるとうれしい)次の手を考えたり示したりしてほしいと思うことが多かった。自分がカウンセリングを受けているような引き出されるばかりの感じがすることがあった。

## &lt;学校の特性や忙しさを考慮しない関わりへの不満&gt;

スクールカウンセラーは子供を指導し良い所や直さなければならぬことを話している姿は見られたが、心の教室の相談員は子供の話聞き、好きなことをさせているだけで、わがままな子供を増やしているように思う。どんな子にも正しいこと間違っていることをしっかり指導していかなくてはならないと思う。

秘密を守るという立場が、かかわる生徒を必要以上に抱え込むと言う姿勢があると、クラスや仲間いずれ戻そうと考えた場合、担任等との感覚のずれが生じることがある。

学校の中で(教職員)コンサルタントがいるのが一番よい。外から週一回位入ってこられてもやりようがないことが多い。又生徒も残りの日々で築いたことをみなやめて、楽な甘えられる方向にいくこともあるので。

何年前か、不登校の生徒についてアドバイスももらったことがあった。生徒の親はどうかして学校へ行かせたいと願い、私も親の気持ちが分かるので、いろいろな方法で働きかけてみたが、なかなか難しく、そのことで相談してみたが、その専門家の答えは、「学校って必ず行かなくてはならないところですか？」というものだった。心理学の専門家からすれば、そうなのだろうが、学校の教員は、やはり親の願いをなんとかしてあげたいと考える。親がそこまで吹っ切れるのは、時間がかかると思う。学校の教員が今の時にできることをアドバイスしてほしかったが、「学校は必ず行くべきところではない」とアドバイスされても困った。専門家と教員との間に大きな考えの「ずれ」を感じむなしい気持ちだけ残った。「互いの専門性を尊重する」というのは難しいことだと思う。

学校の中のカウンセリングという立場を考えてほしいと思う。学校のルールを無視したカウンセリングでは、コンサルテーションが成り立たないと思う。

専門家でしたが、特別室でトランプや漫画。これが本当によいのだろうか疑問を持ちました。学校現場を理解してもらえないなら、連携は無理だな、と思いました。また、職員室でのんびり本を読んでいるカウンセラーには腹が立ちます。いったい何のためにここに来ているのか？

いろいろと問題を持つ子供が増えてきている中で、例えば不登校の生徒に対する指導は、我々教師は「学校に来ることが当たり前」と考える指導をしたいのに、「こなくてもいいんだよ」というような指導(?)や助言をされるのは困る。というように、学校現場で「教師」として子どもたちを見、指導している立場をくつがえすような、全く逆のような指導、アドバイス等をされるのが一番困ります。もちろん不登校になった原因は子ども一人一人違うわけで、学校に来れるようになる時間(期間)もさまざま、個々に対する対応も違って当然なのは承知しています。(もしかしたら中学三年間のうちには来ないかもしれない子もいることも承知しています。)とはいえ、我々教師にとって在籍している子どもが登校しないということはやはり肯定することが難しい、ということを知りたくてほしいと思います。そのうえで助言、アドバイスはどんどんいただきたいと常々感じています。(全てのカウンセラー、全ての子どもたちに対する助言、アドバイスがそうでない(不登校を肯定する)ことも承知しています)不登校の生徒のみならず、他の問題を持つ生徒に対するカウンセリングも同様で我々「学校の教師」としての立場や考え方をぜひ理解いただいた上でよりよい対処のしかたをサポートしてくれたり助言、アドバイスして下さることを大いに期待しております。

## &lt;コンサルタントの力量、熱意等のばらつきへの不満&gt;

とても助かったコンサルタントはお一人だけで、あとは話しぶり雰囲気を持っていたり、人間としてどうかと思われするような行動をとったり…。教育相談を多少なりとも勉強した者にとって、免許をとっているのに…とガツガツするケースが多いのが現場の実態です。

スクールカウンセラーと言っても、人によって熱意などに大きな違いがあります。みんなが積極的に活動していたらとても非常に助かります。

現在、私の地域、県だけかもしれないが、やる気、本気さが私には伝わってこない。私が決して助けを必要としない訳ではない。今の現場では逆に一番必要であるにもかかわらず、個人の差、能力の差がいかに大きくすぎる。

専門家とは言っても、専門性の前に、その人をどう信頼できるかという点は、大きなポイントだと思います。一概にスクールカウンセラーとは言っても力量の差が人によって大きいように思います。学校という場のカウンセラーは現場を経験することが重要だと思いますが、現場に余裕がなくスクールカウンセラーを育てようという雰囲気がかかかないように思います。

カウンセラーの個性や性格に依存するところが大きいとは思いますが、これまで見てきたところ、男性よりも女性カウンセラーのほうが生徒の状況、心理状態についてより理解があったように感じます。また、生徒自身も、女性カウンセラーのほうが相談しやすいようです。特に女子生徒はその傾向が強く、相談室の利用頻度に大きな差ができています。もちろん、その時の状況によって相談の必要がない、ということもあるとは思いますが…。これはやはりどうしようもないことでしょうか？

## &lt;否定的評価&gt;

教師は無責任に他の専門家に頼るべきではない。現場の混乱を招く。

本当の意味で効果をあげているか疑問である。担任の責任回避にもつながる気もする。プロ教師としての自覚と威厳を持って欲しい。公職に命を捧げる覚悟を持つ教師の育成を大学教育の中でやって欲しい。それが優先課題。

SCは週一度さらに午前中のみということから、学校生活や子供たちを本当に理解しているのか？今の現状では必要ないのでは。常駐であれば別だが。

今までごいっしょにさせて頂いたSCは6人その中の一番心に残る…となると、私にとって何もしてくれないどころか生徒との関係、保護者との関係を壊してしまうSCでした。全く逆の今もスーパーバイザーとして助言をくださるSCもいます。

過去の学校では全く当てはまらない(評価ができない)方がいました。逆に困りました。こういう方については意見を伝えられる場がほしいと思いました。

IV. 考察

1995 年以降にスクールカウンセラーが学校現場に導入され 12 年が経過し、数年前には中学校ではほぼ全校に SC が配置され、コンサルタントと接した経験のある教師は珍しくなくなった。そのため、本研究では教師へのコンサルテーションについて、コンサルティである教師からの肯定的な評価があった一方で、否定的評価も明らかにすることができた。

Fig.1 はコンサルタントへの要望が、コンサルタントに対しての肯定的評価および否定的評価との関連を図式化したものである。

Fig.1 で示したように、教師がコンサルタントに要望し、そしてそれが不満の種としてもあげられていた点は、学校という「場」の特性について理解することや、教師の忙しさを考慮して動くことであった。これは小林・庄司 (2007a) が教師を対象とした面接調査でも、教師がコンサルタントに求める要件としてあげられていた。本研究でも同様の点が指摘されたと言える。特に「学校という場」の特性を意識せずに、コンサルタント独自のスタンスで学校での相談にあたった場合に、教師がそのコンサルタントのスタンスにとまどったり、違和感を強く感じていたと考えられる。病院臨床のスタイルをそのまま学校に持ち込むのではなく、学校の流れにあわせることについては多くの研究報告がなされている (例えば、伊藤(1998))。しかし、まだすべてのコンサルタントがそのようなスタイルで活動していない現状が示され、そうしたコンサル

タントが学校で教師と良好な関係を築いて活動できていないことがわかった。

コンサルタントへの否定的評価・不満において、「コンサルタントに相談しても問題が解決できない」という問題解決の不十分さをコンサルティが感じていたことがわかる。コンサルテーションの有効感に関して明らかにした研究では、担任教師がコンサルテーション有効感を最も低くつけていたことがわかっている (小林・庄司, 2007b)。コンサルタントの評価は、SC 活動全般に関して行われており、子どもや保護者の相談件数などが用いられている。Meyers, Parsons, & Martin(1979)は、コンサルタントの支援について客観的な評価をしないと、コンサルテーションの効果よりもむしろ時間内に関わったケースの数や終了したケースの数などで支援の評価がされるリスクがあると述べている。まさに日本はこの指摘に当てはまっていると言える。日本においてコンサルテーションに特化した評価に関する研究はほとんどなく、SC 活動全般に関する評価スケールとして作成されていることが多い (伊藤, 1999, 2000a, 2000b; 黒沢・森・有本・久保田・古谷・寺崎, 2001)。記述の中に、「(コンサルティが)意見を伝えられる場が欲しい」とあったように、コンサルティ側からのこうしたコンサルタントの評価に関する意見もあげられていたことから、こうした尺度の活用が望まれるだろう。

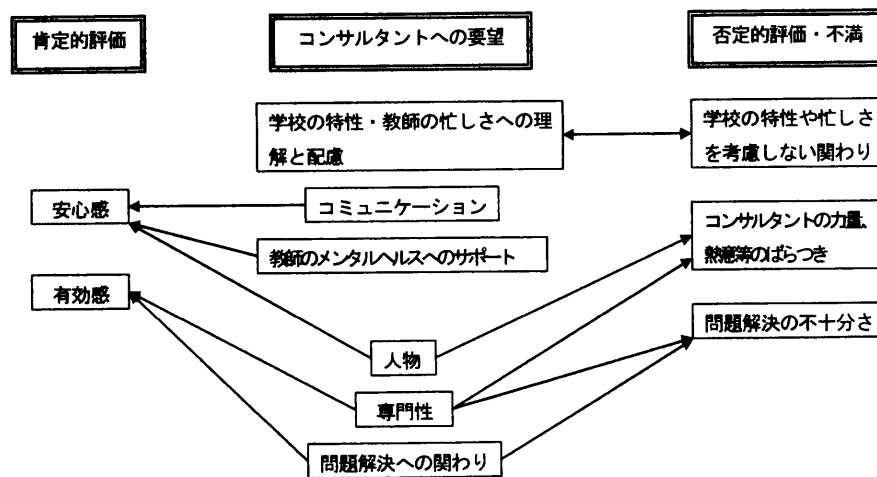


Fig.1 コンサルタントへの要望とコンサルタントの肯定的評価および否定的評価・不満との関連

また、コンサルタントによって専門性の力量や熱意がばらついていることがコンサルティから指摘されていた。コンサルタントを採用する段階で、一人ひとりの力量や熱意を丁寧に把握することが困難である。そのため、現職コンサルタントの研修をこれまで以上に丁寧に、かつ体系的にやる必要があるという課題が指摘されたといえる。神保・渡辺(1991)が50余りの教育研修所等の公的機関が実施しているカウンセラー教育プログラムを調べた結果、コンサルテーションを取り入れたプログラムを見つけられなかったと述べている。現職コンサルタントに対しての“コンサルテーション”そのものの研修を増やしていくこと、さらに研修の内容の中に“学校という場の特性を理解し教師との連携を図っていくこと”や、“問題解決に関する力量”そのものも向上させていくことが含まれていく必要があるだろう。

### 謝辞

本調査の実施に際して、多大なるご協力を賜りました千葉県教育委員会、そして大阪教育大学水野治久先生、また忙しい中、回答していただきました多くの中学校の先生方に心より御礼申し上げます。

### 引用文献

- 神保信一・渡辺三枝子 1991 学校カウンセラー研究プログラムの分析研究 明治学院大学心理学科報告書  
石隈利紀 1999 学校心理学 誠信書房  
伊藤亜矢子 1998 学校という「場」の風土に着目した学校臨床心理士の2年間の活動過程 心理臨床学研究, 15, 659-670.  
伊藤美奈子 1999 スクールカウンセラーによる学校臨床実践評価ならびに学校要因との関連 教育心理学研究, 47, 521-529.  
伊藤美奈子 2000a スクールカウンセラー実践活動に対する派遣校教師の評価 心理臨床学研究, 18, 93-99  
伊藤美奈子 2000b スクールカウンセラーに対する派遣校養護教諭の意識と評価 カウンセリング研究, 33, 30-39.  
伊藤美奈子・中村健 1998 学校現場へのスクールカウンセラー導入についての意識調査-中学校教師とカウンセラーを対象に- 教育心理学研究, 46, 121-130.  
小林朋子・庄司一子 2007a コンサルテーションにおいてコンサルタントに求められる姿勢とスキル-コンサルティとコンサルタントそれぞれの立場からの比較検討 障害理解研究, 9, 37-48.  
小林朋子・庄司一子 2007b コンサルティである教師が捉えたコンサルテーションに関する有効感が高いコンサルタントとは 日本教育心理学会第49回総会発表論文集, 724.  
黒沢幸子・森俊夫・有本和晃・久保田友子・古谷智美・寺崎馨章 2001 スクールカウンセリング・システム構築のための包括的ニーズ調査(その1)-教職員用包括的ニーズ評価尺度 CAN-SCS(T-version)の信頼性と妥当性- 目白大学人間社会学部紀要, 1, 11-25.  
Medwey, F. J., & Forman, S. G. 1980 Psychologist' and Teachers' reactions to mental health and behavioral school consultation. *Journal of School Psychology*, 18, 338-348.  
Meyers, J., Parsons, R. D., & Martin, R. 1979 *Mental health consultation in the schools*. San Francisco: Jossey-Bass.  
日本発達心理学会 2000 心理学・倫理ガイドブック-リサーチと臨床- 有斐閣.